平和への一歩

岐阜市立藍川中学校　３年
石井　夕凪

日本は平和だと思いますか。「平和」という言葉を辞書で引くと「戦争や暴力で社会が乱れていない状態」とあります。この言葉だけを見れば、日本は今、終戦から７５年を迎えて平和であると言えるかもしれません。しかし、日本社会で起きている問題に目を向けていくと、多くの人が苦しい思いをしていることに気づきます。本当に日本は平和と言えるのでしょうか。

日本が抱える問題は、いくつもあります。例えば、いじめ、暴力、性犯罪、貧困、LGBT の問題などです。決して平和で幸福な国だとは言えないと思いました。

特に心が痛んだのは、「自殺」の問題です。自殺率は、国民の幸福度を知るための重要な指標だと言われています。国が経済的に豊かでなくても、自殺率が低い国は幸福度が高く逆に経済力があっても、自殺率が高ければ幸福度は低くなるそうです。日本は、世界で１３番目に自殺率が高い国であり、G7 では最も高い国だということも分かりました。その中には、私と同じ、中学生のいじめによる自殺も含まれています。

昨年の岐阜市のいじめのニュースを聞いて、強い衝撃と悲しみでいっぱいになりました。一緒に楽しく過ごすはずの仲間からのいじめは、どれだけ辛かったことか、その苦しみや悩みの重さに耐えられなくなってしまったに違いありません。同級生がその子のために動いたのに、なぜ助けることができなかったのか、先生や周りの人は、なぜ解決に向かえなかったのか。たくさんの疑問と大きな憤りを感じました。一方で、自分がその場にいたならば、どうするだろう。「やめなよ」そんな当たり前な言葉が言えるだろうか。頭では止めなければと思っているのに、勇気が出なかったり、自分に矛先が向かない方法しかとれなかったりしたのではないか。

そんな場面が私にもありました。少し前、数人が、一人の子をからかっていたのを見たことがあります。微妙な空気が漂っていると感じましたが、じゃれ合っているだけなのか注意するべきことなのか分からず迷った挙句、結局何もできませんでした。その後、その人は、落ち込んでいるように見えました。もしかしたら、本当は、辛かったのに、笑ってごまかしたのかもしれないと思い、止めなかったことを後悔しました。そのことが頭に残り、しばらくもやもやしていました。判断するのは、難しいけれど、もしもということを考えて、声を出すべきだったのではないだろうか。このことから、実際に行動に移すことは、ものすごく難しいことなのかもしれないと気づきました。

だからこそ私は、正しいことを正しいと言える自分でありたいと思います。そして、きっとできるはずだとも思います。なぜなら、今の私には、たくさんの仲間がいるからです。私たちは、授業中いつも仲間と頭を突き合わせて「学び」をしています。次々に班が変わっても、自分が困ったときには、安心して質問ができるし、反対に、質問してきた子が分かりやすいように説明をしたり声をかけたりもできます。違いや異なる意見があっても一緒に考えることで、お互いに学び合ったり違いを認め合ったりしながらプラスに変えていけています。何より、「学び」を通じて、仲間がいるという強い絆を感じることができています。

だから、今私にできることは、見て見ぬふりをせず、小さくてもいいから声をあげることです。正しいことを正しいと言える自分になることです。私一人の力は小さいけれど、二人三人から、少しずつ大きくしていくことで、強い力になれば、いじめは防ぐことができるのではないかと信じています。

このような関係を作ることが平和への一歩となり、日本は「平和だ」と言える世の中に近づけていけると信じて、これからも、一緒に考えられる仲間を増やしていきたいと思います。